



## 平成25年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)



平成24年11月2日

上場取引所 大

上場会社名 寿スピリッツ株式会社

コード番号 2222 URL <http://www.okashinet.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 河越 誠剛

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 経営企画部部長 (氏名) 松本 真司

四半期報告書提出予定日 平成24年11月14日

TEL 0859-22-7477

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成25年3月期第2四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第2四半期	9,808	8.3	821	73.0	830	81.4	497	125.8
24年3月期第2四半期	9,058	△1.2	474	△17.3	457	△23.7	220	△17.6

(注)包括利益 25年3月期第2四半期 489百万円 (105.9%) 24年3月期第2四半期 237百万円 (△4.8%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第2四半期	47.97	—
24年3月期第2四半期	21.25	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
25年3月期第2四半期	13,332	6,521	48.9	628.69
24年3月期	13,305	6,239	46.9	601.48

(参考)自己資本 25年3月期第2四半期 6,521百万円 24年3月期 6,239百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	0.00	—	20.00	20.00
25年3月期	—	0.00	—	—	—
25年3月期(予想)	—	—	—	25.00	25.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成25年3月期の連結業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	20,740	5.1	2,010	28.5	2,020	32.4	1,160	65.0	111.82

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 1社 (社名) (株)ジャパルシー、除外 2社 (社名) (株)加賀寿庵、(株)つきじちとせ

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年3月期2Q	10,373,840 株	24年3月期	10,373,840 株
② 期末自己株式数	25年3月期2Q	364 株	24年3月期	347 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年3月期2Q	10,373,483 株	24年3月期2Q	10,373,574 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料の入手方法について)

四半期決算補足説明資料はTdnetで同日開示するとともに、当社ホームページに掲載いたします。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	4
4. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 継続企業の前提に関する注記	10
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10
(6) セグメント情報等	10
(7) 重要な後発事象	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間における事業環境は、東日本大震災の復興需要など一部に緩やかながら回復の兆しが見られるものの、雇用情勢や所得環境の厳しさから消費者の生活防衛意識や節約志向は更に高まりを見せ、個人消費は低調に推移するなど、依然として厳しい状況が続いております。

このような状況のもと、当社グループは、『新成長エンジン創り』をテーマに、高付加価値商品の開発、新規出店、新市場・新需要の開拓、人材の補強及び育成、コンプライアンスの一層の強化に注力し、経営基盤の強化及び収益性の向上に努めてまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、9,808百万円（前年同期比8.3%増）となりました。利益面では、売上高の増収に加え、製造採算の改善により売上総利益率が前年同期の48.5%から50.9%と2.4ポイント増加し、また、販売促進費など経費の効率的使用に努めたことにより売上高に対する販売管理費比率は、前年同期の43.2%から42.5%と0.7ポイント減少した結果、営業利益は821百万円（前年同期比73.0%増）、経常利益は830百万円（前年同期比81.4%増）となりました。四半期純利益は、繰延税金資産の見直しによる税金費用の減少要因があったことなども加わり497百万円（前年同期比125.8%増）となりました。

なお、解散子会社の株式会社加賀寿庵は平成24年4月に、株式会社つきじちとせは平成24年6月にそれぞれ清算終了いたしました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

#### ① ケイシイシイ

「ルタオ」ブランドを擁するケイシイシイは、利益率の改善に注力し、プロモーション費用などの効率的な使用や道外催事などの外商部門の採算管理の徹底に努め、また、新商品の開発や通信販売の強化を推進いたしました。商品展開では、ルタオ15年目の記念スイーツ「ルーローブラン」の発売、椿酵母を使用した「北海道生クリーム食パン」を投入したキャンペーンや頒布会を開始いたしました。また、道内店舗では、新規出店効果や北海道の旅行需要の回復傾向により、小樽地区及び千歳空港が堅調に推進いたしました。その結果、売上高は、3,253百万円（前年同期比2.7%増）、営業利益は298百万円（前年同期比135.4%増）となりました。

#### ② 寿製菓

寿製菓は、「ラングドシャ」商品を中心にグループ向け売上が増加したことに加え、関東の代理店向けに4月に開通した新東名高速道路のサービスエリアへの新商品の投入、地元山陰地区では、古事記編纂1300年イベントと連携し、主力商品「因幡の白うさぎ」の販売強化、また、「栃の実茶」の通信販売の強化などに努めました。その結果、売上高は3,706百万円（前年同期比11.4%増）、営業利益は349百万円（前年同期比64.7%増）となりました。

#### ③ 販売子会社

販売子会社は、駅・空港・高速道路などの交通機関チャンネルを中心に、販売強化に努め、名古屋地区では「小倉トーストラングドシャ」、宮崎地区では、「宮崎マンゴーラングドシャ」の拡販強化、また、京都地区では、新ブランド「KYOTO VENETO（ベネト）」を立ち上げました。その結果、売上高は2,130百万円（前年同期比2.7%増）、営業利益は108百万円（前年同期比14.0%増）となりました。

#### ④ 九十九島グループ

九十九島グループは、新商品を投入した大手テーマパーク向け売上が好調に推移したほか、「九十九島せんべい」と「はなかご」のモンドセレクション3年連続最高金賞W受賞のPR展開に努めました。その結果、売上高は1,449百万円（前年同期比6.0%増）、営業利益59百万円（前年同期比108.9%増）となりました。

#### ⑤ 但馬寿

但馬寿は、前年同期の震災影響の反動増などにより堅調に推移し、売上高は528百万円（前年同期比3.8%増）、営業利益は40百万円（前年同期比32.8%増）となりました。

#### ⑥ シュクレイ

事業の再構築を進めておりますシュクレイは、新規出店では、4月にルミネ大宮店、5月に東急百貨店渋谷店、7月にルミネ立川店、9月にルミネ藤沢店及びラゾーナ川崎プラザに出店いたしました。また、期間限定の催事販売では、新ブランド「ザ・メープルマニア」を投入し、6月に羽田空港第1旅客ターミナル、7月より東京駅グランスタダイニングにおいて出店し売上高の拡大に努めました。その結果、売上高は740百万円（前年同期比98.5%増）、営業利益は24百万円（前年同期は営業損失7百万円）となりました。

#### ⑦ その他

その他は、損害保険代理業及び新規事業として本格的な事業開始に向け準備を進めております健康食品事業が含まれております。売上高は2百万円（前年同期比8.8%増）となり、営業損失は74百万円（前年同期は営業利益0百万円）となりました。

## (2) 連結財政状態に関する定性的情報

### ① 資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、13,332百万円となり、前連結会計年度末と比べ27百万円増加いたしました。主な要因は、現金及び預金の減少(105百万円)、受取手形及び売掛金の増加(53百万円)、固定資産における貸倒引当金の減少(35百万円)などによるものです。

負債は、6,810百万円となり、前連結会計年度末と比べ255百万円減少いたしました。主な要因は、返済及び1年内返済予定の長期借入金への振替えによる長期借入金の減少(458百万円)、未払法人税等の減少(88百万円)、流動負債のその他の減少(74百万円)などの減少要因があった一方、短期借入金の増加(200百万円)、1年内返済予定の長期借入金の増加(189百万円)などの要因によります。

純資産は、6,521百万円となり、前連結会計年度末に比べ282百万円増加しました。主な要因は、利益剰余金の増加(290百万円)によるものです。

この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ2.0ポイント増加し、48.9%となり、1株当たり純資産は628円69銭となりました。

### ② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物(以下「資金」という。)残高は、前連結会計年度末に比べ105百万円減少し、1,876百万円(前年同期比25.8%増)となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、458百万円(前年同期比22.0%増)となりました。

主な要因は、税金等調整前四半期純利益829百万円、減価償却費の計上275百万円の計上があった一方、売上債権の増加53百万円、法人税等の支払456百万円などの減少要因によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、266百万円(前年同期比52.9%減)となりました。

主な要因は、有形固定資産の取得による支出250百万円であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、296百万円(前年同期は156百万円の資金獲得)となりました。

主な要因は、短期借入金の純増額200百万円の増加要因があった一方、長期借入金の返済による支出269百万円及び配当金の支払207百万円等の減少要因によるものであります。

## (3) 連結業績予想に関する定性的情報

連結業績予想に関しましては、当第2四半期連結累計期間の業績動向及び今後の見通しを踏まえ、平成24年5月15日付「平成24年3月期決算短信」にて発表しました平成25年3月期通期業績予想を修正いたしております。

今後の経営環境は、依然として厳しい状況が続くものと見込まれます。当社グループは、引き続き新規出店、新ブランド、新商品開発、新規事業など「新成長エンジン創り」に積極的に取り組み、修正計画の達成を目指してまいります。

詳細は、本日別途開示する「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照下さい。

## 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

### （1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

当第2四半期連結累計期間において連結子会社でありました株式会社加賀寿庵は平成24年4月に、株式会社つきじちとせは平成24年6月に、それぞれ清算したため、第1四半期連結会計期間より連結の範囲から除外しております。ただし、清算終了までの損益計算書は連結しております。

また、第1四半期連結会計期間より、新たに設立した株式会社ジャパルシーを連結の範囲に含めております。

### （2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

### （3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

（会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更）

当社及び連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

これにより、従来の方法に比べて、当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ3,161千円増加しております。

## 3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,522,870	2,416,996
受取手形及び売掛金	2,032,302	2,085,556
商品及び製品	516,280	526,638
仕掛品	26,898	28,771
原材料及び貯蔵品	303,324	322,875
その他	370,684	365,813
貸倒引当金	△5,472	△4,515
流動資産合計	5,766,886	5,742,134
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,103,529	3,054,436
機械装置及び運搬具(純額)	474,897	521,841
工具、器具及び備品(純額)	212,251	230,203
土地	2,571,639	2,571,639
リース資産(純額)	51,085	40,901
建設仮勘定	—	2,753
有形固定資産合計	6,413,401	6,421,773
無形固定資産		
投資その他の資産		
その他	1,126,287	1,136,062
貸倒引当金	△138,793	△102,937
投資その他の資産合計	987,494	1,033,125
固定資産合計	7,538,675	7,590,456
資産合計	13,305,561	13,332,590
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	730,627	732,751
短期借入金	2,000,000	2,200,000
1年内返済予定の長期借入金	494,288	683,404
未払法人税等	459,260	370,360
賞与引当金	362,449	359,934
その他	800,345	725,742
流動負債合計	4,846,969	5,072,191
固定負債		
長期借入金	1,169,617	710,727
退職給付引当金	747,869	749,346
役員退職慰労引当金	98,042	—
その他	203,573	278,677
固定負債合計	2,219,101	1,738,750
負債合計	7,066,070	6,810,941

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,217,800	1,217,800
資本剰余金	1,323,161	1,323,161
利益剰余金	3,686,897	3,977,014
自己株式	△312	△326
株主資本合計	6,227,546	6,517,649
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	11,945	4,000
その他の包括利益累計額合計	11,945	4,000
純資産合計	6,239,491	6,521,649
負債純資産合計	13,305,561	13,332,590



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
売上高	9,058,671	9,808,823
売上原価	4,665,993	4,816,352
売上総利益	4,392,678	4,992,471
販売費及び一般管理費	3,917,745	4,170,808
営業利益	474,933	821,663
営業外収益		
受取利息	258	226
受取配当金	1,695	1,837
受取地代家賃	9,865	9,165
その他	18,123	19,855
営業外収益合計	29,941	31,083
営業外費用		
支払利息	23,086	19,399
貸倒引当金繰入額	20,225	—
その他	4,056	3,321
営業外費用合計	47,367	22,720
経常利益	457,507	830,026
特別損失		
固定資産売却損	—	39
固定資産除却損	2,139	286
投資有価証券評価損	30,458	—
特別損失合計	32,597	325
税金等調整前四半期純利益	424,910	829,701
法人税等	204,499	332,114
少数株主損益調整前四半期純利益	220,411	497,587
四半期純利益	220,411	497,587

(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	220,411	497,587
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	17,416	△7,945
その他の包括利益合計	17,416	△7,945
四半期包括利益	237,827	489,642
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	237,827	489,642

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	424,910	829,701
減価償却費	283,557	275,886
投資有価証券評価損益(△は益)	30,458	—
貸倒引当金の増減額(△は減少)	38,972	△36,813
賞与引当金の増減額(△は減少)	△18,905	△2,515
退職給付引当金の増減額(△は減少)	17,309	1,477
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△32,064	△98,042
受取利息及び受取配当金	△1,953	△2,063
支払利息	23,086	19,399
固定資産売却損益(△は益)	—	39
固定資産除却損	2,139	286
売上債権の増減額(△は増加)	△264,550	△53,254
たな卸資産の増減額(△は増加)	△56,213	△31,782
仕入債務の増減額(△は減少)	104,701	2,124
その他	44,247	27,198
小計	595,694	931,641
利息及び配当金の受取額	1,806	1,983
利息の支払額	△21,369	△19,417
法人税等の支払額	△200,497	△456,014
営業活動によるキャッシュ・フロー	375,634	458,193
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△600	△600
定期預金の払戻による収入	1,200	1,200
投資有価証券の取得による支出	△603	△1,468
有形固定資産の取得による支出	△499,556	△250,864
有形固定資産の売却による収入	—	19
無形固定資産の取得による支出	△32,761	△15,195
貸付金の回収による収入	1,300	250
その他	△35,248	△5
投資活動によるキャッシュ・フロー	△566,268	△266,663
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	100,000	200,000
長期借入れによる収入	600,000	—
長期借入金の返済による支出	△265,364	△269,774
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△11,190	△12,046
自己株式の取得による支出	△19	△14
配当金の支払額	△259,340	△207,470
その他	△7,500	△7,500
財務活動によるキャッシュ・フロー	156,587	△296,804
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△34,047	△105,274
現金及び現金同等物の期首残高	1,526,291	1,981,870
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,492,244	1,876,596

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(6) セグメント情報等

(セグメント情報)

I 前第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						
	ケイシー シー	寿製菓	販売子会社	九十九島 グループ	但馬寿	シュクレイ	計
売上高							
外部顧客への売上高	2,952,524	2,311,440	2,075,151	1,211,820	164,818	340,484	9,056,237
セグメント間の内部 売上高又は振替高	217,252	1,017,319	260	154,799	343,763	32,364	1,765,757
計	3,169,776	3,328,759	2,075,411	1,366,619	508,581	372,848	10,821,994
セグメント利益 (△は損失)	126,831	212,227	95,105	28,442	30,354	△7,790	485,169

	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
売上高				
外部顧客への売上高	2,434	9,058,671	—	9,058,671
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	1,765,757	△1,765,757	—
計	2,434	10,824,428	△1,765,757	9,058,671
セグメント利益 (△は損失)	264	485,433	△10,500	474,933

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、損害保険代理業が含まれております。

2. セグメント利益(△は損失)の調整額△10,500千円は、当社とセグメントとの内部取引消去額231,420千円、セグメント間取引消去額5,870千円、たな卸資産の調整額△4,528千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△243,262千円であります。全社費用は、主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。

3. セグメント利益(△は損失)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間（自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント						
	ケイシイ シイ	寿製菓	販売子会社	九十九島 グループ	但馬寿	シュクレイ	計
売上高							
外部顧客への売上高	3,060,247	2,407,982	2,130,749	1,310,749	156,277	740,170	9,806,174
セグメント間の内部 売上高又は振替高	193,589	1,298,664	—	138,479	371,852	—	2,002,584
計	3,253,836	3,706,646	2,130,749	1,449,228	528,129	740,170	11,808,758
セグメント利益 （△は損失）	298,546	349,494	108,390	59,428	40,297	24,191	880,346

	その他 （注）1	合計	調整額 （注）2	四半期連結 損益計算書 計上額 （注）3
売上高				
外部顧客への売上高	2,649	9,808,823	—	9,808,823
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	2,002,584	△2,002,584	—
計	2,649	11,811,407	△2,002,584	9,808,823
セグメント利益 （△は損失）	△74,902	805,444	16,219	821,663

（注）1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、損害保険代理業及び健康食品事業が含まれております。

2. セグメント利益（△は損失）の調整額16,219千円は、当社とセグメントとの内部取引消去額270,350千円、セグメント間取引消去額7,485千円、たな卸資産の調整額△5,116千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△256,500千円であります。全社費用は、主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。

3. セグメント利益（△は損失）は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

前連結会計年度中において子会社の状況に変動があったことに伴い、セグメント名称を「つきじちとせ」から「シュクレイ」に、「販売子会社（11社）」から「販売子会社」にそれぞれ変更しております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、当該変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

（7）重要な後発事象

該当事項はありません。